ninoyu satoshi
発行所:自由民主党京都府参議院選挙区第三支部
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ハウスドゥ四条ビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310
発行人:二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館921号室
TEL.03-6550-0921 FAX.03-6551-0921

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。
題字:栢木寛照

えとす
令和4年 No.336 4月号

京都の智恵を日本に活かす。
二ノ湯智ホームページ http://www.ninoyusatoshi.com

# 令和4年度予算が円滑に成立
# 早期執行で日本経済の再生を

令和4年度の予算案が、異例の速さで、3月22日に成立した。岸田首相の唱える「成長と分配」によって、コロナ禍で苦しむ国民の生活が、改善することを期待したい。そんな折、ロシアによるウクライナへの侵略が始まった。国会では、衆参両院でロシアの行動を強く抗議する非難決議を採択した。

(参議院決議案要約)

「2月24日、ロシアは、ウクライナへの侵略を開始した。このようなロシアの行動は、明らかにウクライナの主権及び領土の一体性を侵害し、武力の行使を禁ずる国際法の深刻な違反であり、国連憲章の重大な違反である。力による一方的な現状変更は断じて認められない。ロシアに対し、即時に攻撃を停止し、部隊をロシア国内に撤収するよう強く求める。本院は、改めてウクライナ及びウクライナ国民と共にあることを表明する。政府においては、本院の意を体し、ウクライナに在住する邦人の安全確保に全力を尽くすとともに、国際社会とも連携し、制裁を含め、事態に迅速かつ厳格な対応を行い、あらゆる外交資源を駆使して、ウクライナの平和を取り戻すことを強く要請する。右決議する。」

3月23日 衆議院国際会議室

コルスンスキー駐日ウクライナ大使と挨拶を交わす岸田総理大臣(出典:首相官邸ホームページ)

オンラインで国会演説するゼレンスキー・ウクライナ大統領(出典:首相官邸ホームページ)

## 恒心

★私は国家公安委員長の他、防災担当大臣も兼ねている。防災とは災いを防ぐと書く。災害には天災があり、人災(戦災)もある。我々に身近な災害は天災である。天災にも、地震、津波、台風、洪水、噴火、大雪、竜巻などがあるが、現在の科学ではこれらの自然現象の発生を止める事は難しい。★台風などは事前の備えが可能だが、地震だけは、何時、どこで、どんな規模で起こるか全く予想がつかない。明日か、それとも10年、20年先かもしれない。いったん、大きい地震が発生したら、甚大な被害が発生する。★ここ半年でも、千葉県北西部で震度5強、そして福島県沖で震度6強の地震が起きた。東京都内でも震度5強、震度4が観測されたが、防災担当大臣である私は、首相官邸の危機管理センターに馳せ参じた。★千葉の地震では、電車が不通となり、駅周辺に人があふれ、多くの人が帰宅困難者となった。首都直下地震が起きれば、数百万人の帰宅困難者が発生、この人たちの一時避難所の確保が大きな課題となっている。★福島の地震では、屋根の瓦が落ち、壁がずり落ち、玄関先の扉が破損し、更に相馬市内の殆んどの家庭で、水道が断水して、日常生活に大きな不便をもたらした。福島の人にとっては、東日本大震災以来、相次ぐ自然災害で、まさに災難続である。★そこに降って湧いたのが、ロシアの侵略である。ウクライナの美しい街並みは、ロシアの執拗な爆撃で、見るも無残な惨状である。しかも、多数の民間人が殺害された事実も明らかになった。この災害は人災であり、人間の英知、理性で解決しなければならない。人類は、天災と人災(戦災)の2つに打ち克つ必要がある。

# 二ノ湯大臣の公務と現地視察(2面・3面)

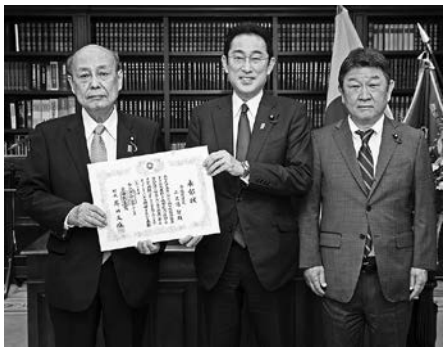
③2022年3月11日
内閣人事局・人事院の若手職員との懇談会
「大胆な働き方改革案の提言に向けて彼らの検討の経過報告を受ける」(8号館大臣室)

②2022年1月21日
参議院本会議「国家公安委員長の答弁」
(参議院本会議場)

①2022年1月14日
兵庫耐震工学研究センター視察
(兵庫県三木市)

⑥2022年3月20日
犬打峠トンネル着工を祝う会
(和束町)

⑤2022年3月19日
福島県被災地視察
「内堀福島県知事から要望書を受け取る」
(福島県庁)

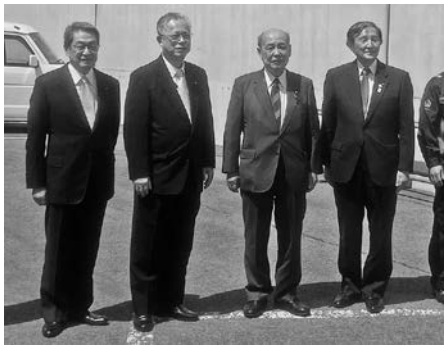


④2022年3月14日
党大会表彰者優秀党員表彰状授与式
(党本部総裁室)

⑨2022年3月30日
「共産党小池晃参議院議員他3名の議員から福島県の地震被災地の支援要望書を受け取る」
(8号館大臣室)

⑧2022年3月27日
京都府知事選挙「西脇個人演説会」
(宇治市産業会館)

⑦2022年3月23日
公務員連絡会との会見
「春闘期要求に対する最終回答をする」
(8号館会議室)



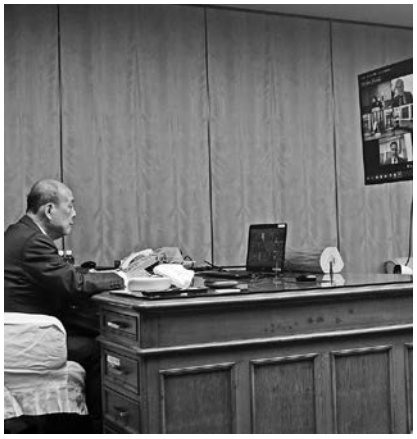
⑫2022年4月10日
和歌山県下津港を視察(海南市)
右から仁坂知事、神出海南市長、石田代議士

⑪2022年4月5日
自由民主党各種団体懇談会
「防災・国土強靱化について講演」(ザ・キャピトルホテル東急)

⑩2022年4月1日
電動キックボード試乗
(警視庁交通安全教育センター)

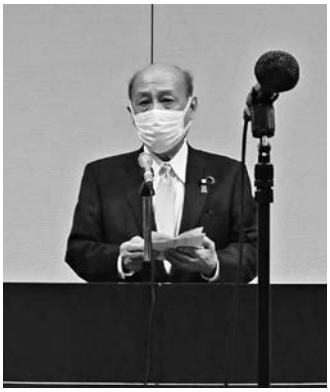
## 臨時G7内務・治安担当閣僚会合 二ノ湯公安委員長も出席

ウクライナ・ロシア情勢を受け、国際社会は、ウクライナ避難民の受け入れを推進しており、また、サイバー事案等への治安上の懸念も高まっている。こうした課題について、各国間で連携して対応していくため、3月24日、臨時のG7内務・治安担当大臣等による閣僚級会合がオンライン形式で開催された。G7各国及び欧州委員会の内務・治安担当大臣らが参加、わが国からは、二ノ湯国家公安委員長、古川法務大臣が出席した。会合の後、G7内務・治安担当閣僚の連名で、共同コミュニケを発出した。コミュニケでは、「●ロシアによるウクライナ侵略、住民や病院等の民間を標的とした無差別攻撃を強く非難●ウクライナ避難民に対する支援・保護について、G7が一体となって取り組んでいくこと●サイバー事案、人身取引等の各種治安上の懸念に対抗するため、各国間で情報共有を強化していく」ことに言及した。


オンラインで閣僚級会合に参加

## サイバー警察局、関東管区警察局サイバー特別捜査隊発足式 警察挙げて重大サイバーに対処

最近のサイバー空間の脅威は深刻である。機密情報の窃取や社会機能の麻痺等を目的としたサイバー攻撃が国内外に多数発生している。多くの国民がサイバー空間に不安感を持っている。サイバー空間の安全・安心の確保は、国民が安心して暮らせる社会の実現に不可欠である。こうした情勢を踏まえ、警察のサイバー事案への対処能力の強化を図るため、警察庁にサイバー警察局を、関東管区警察局に重大サイバー事案の捜査を行うサイバー特別捜査隊を、4月1日にそれぞれ発足させた。今回の組織改正により、サイバー事案の厳正な取締りや実態解明、国内外の関係機関との連携を更に推進し、サイバー空間における国民の安全・安心の確保を図ることになった。


サイバー警察局、関東管区警察局サイバー特別捜査隊発足式で挨拶する

## 福島県沖地震の支援策がまとまる 被災者の意向に寄り添う

3月16日福島県沖を震源とする地震が発生した。二ノ湯防災担当大臣は、岸田総理の指示を受け、直ちに現地に入り、被害状況を視察した。傾いた建物や傷んだ屋根などを見て、相当大きな地震であったと実感した。その後、福島県の知事、相馬市長と意見交換をした。福島県では11年前の東日本大震災に加え、令和元年東日本台風、昨年の地震、更にコロナ禍の影響を受け、復旧、復興への気力を失いかねない厳しい状況にある。総理からは、政府一体となって、被災地の方々の復興に向けた希望が失われることのないよう、被災者の気持ちに寄り添いながら、必要な支援を行うように指示を受けていた。関係省庁の協力を得て、昨年以上の支援策を取りまとめる事が出来た。

被災地の支援策を発表する二ノ湯防災担当大臣

## 西脇知事 堂々と再選を果たす 幅広い府民の支持を得る

4月10日、投開票が行われた京都府知事選挙は、現職の西脇氏が、共産推薦の候補に大きく差をつけて、堂々たる成績で再選を果たした。知事は次の4年間の抱負を語った。

「皆様の温かいご支援により、京都府知事に再選させていただくことができました。これまでの1期4年の実績と経験を活かし、まずは新型コロナウイルスから府民の皆様の命と健康、暮らしを守り、事業の継続を支援し、コロナ禍を乗り越えるため、全力を尽くしてまいります。そして、人口減少等の構造的課題や、厳しい経済情勢など、様々な困難がありますが、選挙を通じて皆様に訴えてきた「安心」「温もり」「ゆめ実現」の3つのキーワードで、誰もが未来に夢や希望をもてる「あたたかい京都づくり」を皆様とともに進めるため、邁進する所存です。皆様のご支援と御協力をお願い致します。」

早々に当確が出て、夫人と共に万歳三唱する西脇知事

# ウクライナ問題について思う

ロシアによるウクライナ侵攻は決して許されない。武力による問題解決は国際法で禁止されている。これは人類普遍のルールだ。しかし現実は違う。現実に戦争が起こっている。あまりに厳しい国際社会の現実だ。

メディアでの戦争の構図は、ロシアが極悪人、ウクライナが正義である。そうした面はある一方、それだけでは本質を捉えきれていない。

91年に冷戦が終了して以降、欧州の安全保障はNATOとロシアの緊張関係を保つことだった。アメリカの外交専門家の間ではNATOを必要以上に東へ拡大するとかえってロシアを刺激し均衡を壊すことになるとされた。

しかしクリントン政権末期からブッシュ・ジュニア政権でNATOの東方拡大が進む。緩衝地帯とされたウクライナやジョージアまでをNATOへと抱き込もうとし、ロシアの反発を招いた。ジョージア紛争やクリミア紛争である。

戦前、日本では朝鮮半島が「帝国の生命線」とされ、敵国勢力に支配されないよう多大な犠牲を払ってまで日清・日露の戦争を戦った。そんな朝鮮半島は日本と海で隔てられるが、ウクライナとロシアは2000kmもの国境線で陸続きである。仮にウクライナ国内にアメリカ軍の核兵器が配備されようものなら。これはロシアからの視点である。

戦争はいったん起こると民間人の死者や残虐な行為は防ぎようがない。戦争は起こしてはいけない。そうした意味では、ゼレンスキー大統領の政治責任は存在すると思う。戦争が起こってからのゼレンスキー大統領はカリスマ的であるが、多くのウクライナ国民が亡くなっている。一方それ以前のウクライナ大統領は凡庸かもしれないがロシアと戦争に至っていない。

この戦争の結果、原油や食料の高騰、世界的な軍備増強で最も得をしているのはアメリカである。逆にエネルギーや食糧を海外から買うしかない日本は、不景気下での物価上昇に直面することになる。厳しい国際社会を生き抜いていく強(したた)かな戦略性と、自国の安全保障の驚くべき脆さを認識して早急に対策を実行しなければ国民の命は守れない。

桜美林大学客員教授
二之湯 武史

# 第89回自由民主党大会 参議院選挙必勝を誓う

岸田総裁と
グータッチを交わす吉井氏

3月13日(日)、第89回自民党大会が、グランドプリンスホテル新高輪で開かれた。コロナ感染者が依然多い中での開催のために、出席者は例年より少なかった。今年7月、参議院通常選挙が行われるため、自民党公認として出馬予定の候補者が紹介された。京都選挙区の吉井章京都市会議員も元気な姿を見せていた。

## 二ノ湯議員、今年も書道展に出展

二ノ湯参議院議員が所属する真龍書道会主催の第8回書道展が、大阪市美術館で開催された。二ノ湯議員は「中原に鹿を逐(お)う」を出展した。政権や地位を得るためにお互いに競争するという意味。政治家として、激しい選挙を勝ち抜く事もその一つである。

# 身辺雑記

一、石原慎太郎氏が亡くなった。太陽族の生みの親であり、戦後最大のスターの1人であった。慎太郎氏の登場は若者に大きな影響を与えた。彼の描く湘南地方の若者の都会的雰囲気に私も感化され、慶応大学入学の誘因となった。

一、通常国会の真っ最中である。私にとって、委員会答弁は初めての経験である。事前に十分勉強をしていても、緊張するものである。多くの特命大臣を兼ねているので、幅広く勉強しなければならない。

一、四六時中、要人警護をするSPの仕事は大変である。過剰警護ではないかと思うほど、気配りをしている。ただ、トイレに行くときも、入口までついてくる。それも仕事のうちと分かっていても、こちらはゆっくり用足しも出来ない。

一、西京高校時代以来、長い間付き合ってきた友人が、突然亡くなった。昔なら77才での往生はそんなに早い年ではない。だが、今のご時世、少し早すぎる。これから、身近な人が、1人欠け、2人欠けていく、なんとも寂しい限りだ。